

令和6年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT

開催報告書

日本大学 学生 FD CHAmmiT スタッフ一同



自主創造
日本大学

9月29日 日本大学学生FD CHAmmit は本番を迎えることが出来ました。

今年は「～魅力・強みの再発見～“日大”をどう活かす？」というテーマを下に、一般参加の学生や学生スタッフ、卒業生および教職員を合わせて、総勢 213 名の方々にご参加いただきました。

昨年から完全対面方式での開催となったことで、より「深く、白熱したしゃべり場」になったのではないのでしょうか。

参加者の皆様、ありがとうございました。

また、CHAmmit に携わる関係者の方々におかれましては、皆様のご助力あってこそその本番であったと思っています。

この場をお借りして、多大なるご支援をいただいたこと、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

そして、本報告書は、私たち学生的心声を教職員の皆さんと共有することで、日本大学の教育をよりよいものにしたいという狙いの下に作成・公開を行っています。

本報告書が学生、教職員、そしてそのほかの日本大学に関わる人々にとって、少しでも参考になれば幸いです。



{ アイスブレイク 1 }

テーマ:「無人島に 1 つだけ持っていけるとしたら?」

アイスブレイク 1 は、セッション 1 を行うメンバーで「無人島に 1 つだけ持っていけるとしたら?」というテーマで行いました。

船やボート、ナイフや濾過装置など... 個性あふれる回答が多く、初対面の方々が多かったですが、各グループごとに緊張もほぐれ、仲を深めることが出来ました。

{ セッション 1 }

テーマ:「他の人にオススメしたい授業」

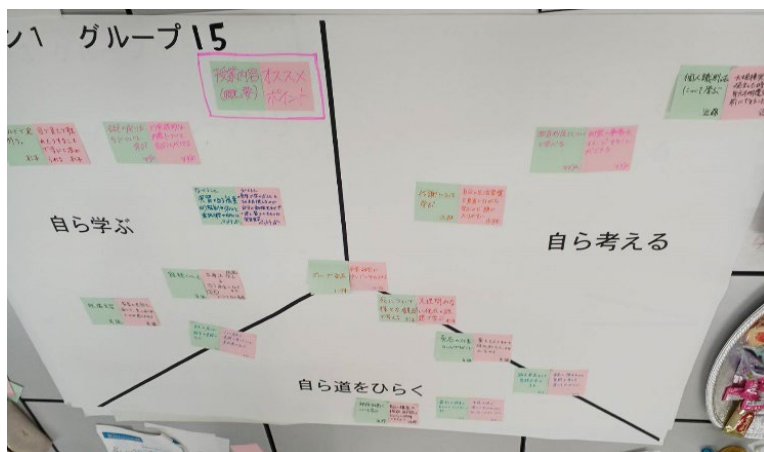
セッション 1 では、他の人にオススメしたい授業について他学部の方々と話し合いました。

自分が面白い・楽しかったと思った授業について意見を出すだけでなく、日本大学の教育理念である「自主創造」を構成している 3 つの要素のどれに該当するかも考えていただきました。

また、教職員の方々には自身が学生時代に受けてみて面白かった授業や、今自分が学生に対して教えている授業など学生とは少し違った視点からのご意見をいただきました。

そして、セッション 1 の最後には、自分の所属学部に対して提案したい授業について、各自で付箋に記入していただきました。

こちらで記入していただいた付箋はセッション 3 で反映させていただきます。



{ アイスブレイク 2 }

テーマ:「1 億円あったら何に使いたい?」

アイスブレイク 2 では、セッション 1 とメンバーが異なり、同じ学部の学生同士で構成されたグループで、「1 億円あったら何に使いたい?」というテーマでアイスブレイクを行いました。同じ学部同士の学生ということもあり、和気藹々とした雰囲気で行うことが出来ました。

{ セッション 2 }

テーマ:「自分が受けた授業で見つけた改善すべき点」

セッション 1 では、他学部同士の学生で集まり「他の人にオススメしたい授業」について話し合っていました。

セッション 2 では、授業で見つけた改善すべき点(良くないところ)・どう改善すれば良いかの改善点について考え、共有していただきました。

教職員の方々には、教職員の立場から見て思う意見や、学生から聞いた要望などについて多くのご意見をいただきました。

改善すべき点を記入した付箋は、セッション 3 に反映させていきます。

良くない所	課題や試験のフィードバックがない	試験や課題を評価し、返却する	外部講師はシラバスを無視しがち	シラバスから逸脱したら教員側の減点処置みたいなシステム	同じ科目でも受ける教員によって内容が異なる	授業内容・評価方法を統一する	シラバスと大きく外れた内容	教員のやり方に限らず学生・学部・大学が評価し、結果を公表する
改善案	レジュメがあるのか無いのかわからない。統一感がない。	レジュメがあるのならば、抜粋するのではなく全体版を共有する	レポートやテストの結果として点数しか分からない	添削した答案を返却する	グループ分けによってやらない人が出てきて迷惑	グループ分けの仕方を考える	授業中、TVを流すだけで終わってしまう	内容について触れたり、レジュメ・教科書を併用する
	座学の授業が多すぎて学生が飽きている	GDや学生が意見を言える機会を作る	限られた人数しか受けられない	オンライン等を活用して多くの学生が受講できるように整備する	スライドの内容を読み上げるだけ	スライドの内容に加えてわかりやすく説明する	他の学科の授業を受けるのにハードルが高い	他学科の授業を受けるための手続きを簡素化する
	話を一方的に聞くだけ、雑談が多い	学生同士で話し合ったり、考えたりする時間を設ける	グループワークの時間が短い	自分が考えたことを共有する時間を設ける	授業の演習問題のレベルが低い	習熟度別に課題・クラスを変える	研究の自慢話が多い	研究の話から学生の今後につながるように話す
	質問をするのに多くの手順を踏む必要がある	授業の終わりに個別に質問できるようにする、簡単に質問しに行ける	将来にどのようなものになるのか先が見えない	実務経験を体験できる授業を設ける	話すスピードがゆっくり、マイクをきちんと使わずに声がこもる	学生に教えるときの授業の行い方について研修を行う	ニックネームなどを記入する!	

書き方参考例



{ セッション 3 }

テーマ:「私たちが未来に活かすためには」

セッション 3 では、セッション 1・2 で話し合ってきた内容を元に、各グループごとに学部提案書として提案する意見についてまとめました。

セッション 1 で記入した「自分の学部に提案したい授業」、セッション 2 で記入した「改善すべき点」の 2 種類の付箋を用いて、自主創造を構成する 3 つの要素とその他に分類しました。

学部に関する提案はもちろん、全学部に関する提案も挙げる事が出来、充実した議論をすることが出来ました。

〈学部提案書 書き方の例〉

学部提案書 (学部)	
学部提案書	全学部に関わる項目
自ら学ぶ ・授業にOBを呼んで実際の体験や経験を踏まえて学ばせてもらうことができる授業 理由: 年齢に近い人生の先輩から授業も含めた総合的な面で話を聞くことができ学べる利点がある ・シラバスを大学・学部・学生で確認、評価する授業 理由: 先生によってシラバスから逸脱した授業をするから ・成績の評価基準が統一された授業 理由: 努力や成果を正当に評価されない授業があるため	ー
自ら考える ・グループ、個人でワークの時間を必ず設ける 理由: 教授の話を聞くだけの一方的な授業スタイルを改善するため ・学科についてや学科に関する情報を学んで考察・共有し、自身の今後に生かす授業 理由: 授業の中で自身の学科について学ぶことがないから	・
自ら道をひらく ・自己分析をしたり、インターンに参加したり、就活についての情報を学んで自身の就活に備える授業 理由: 就活やキャリアについて授業で学ぶ機会がないから ・オンデマンド等の機能を用いて授業を受けれる人数制限を無くして受付けたい授業を受けれるように	
学部に関わる授業 その他 ・教授のシラバス作成の自由化を推進する ・実験室でのルールを統一したものを作る	

令和6年度 日本大学 学生FD CHAmiT

書き方 参考例



最後に

今回、ご参加していただいた皆様と作成した「学部提案書」は、FD推進センター(全学FD委員会)で共有し、後に各学部にて「学部提案書」に基づいて、効果的な教育改善の実現に向け、具体的な検討フェーズに入る予定です。

今年度の CHAmmiT は、7 回のスタッフミーティングと多くのオンライン研修を経て、スタッフの努力と研磨が報われた、「良いしゃべり場」にすることが出来たと思います。

学生スタッフだけではなく、公募ファシリテーターの皆様、OBOG スタッフの皆様、その他ご尽力いただいた皆様は、本当にお疲れ様でした！

そして、今回「参加者」としてご参加して下さった皆様におかれましては、機会がありましたら是非、来年度の CHAmmiT にもご参加下さい。

もちろん、学生スタッフとしてのご参加も大歓迎です。

日本大学がよりよい「教育の場」になるよう、

これからも学生 FD CHAmmiT を盛り上げていきましょう！